

いかなるニーズにも応える体制着々



朝日ビジネス
コンサルティング(株)
古川 武史 社長

「クライアントニーズにどこまで応えられるかへの挑戦」を命題に掲げた5カ年の中期経営計画が3年目を迎えた朝日ビジネスコンサルティング(株)。12年度の8人に続き、4月1日付で新たに4人のスタッフが加わり、グループで30人を超す体制となった。古川武史社長は「最初の2年間はスタッフのコンサルティングスキルと経営マネジメント能力を磨く期間に充てたが、13年度は、ひらくべきテーマに、温めていた複数の新規事業を本格化し大きく展開していきたい」と抱負を語る。

三大監査法人の一つ、旧朝日(現あずさ)監査法人福岡事務所のコンサルティング事業部を出自とする同社は、そもそも少数精鋭主義で知られていた。06年に社長就任後もその路線を継承してきたが、08年のリーマン・ショックという劇的な環境変化が考えを一変させた。「07〜10年度の当社中計は前倒し

で達成できたが、釈然としない大きな課題が横たわった。1つは環境変化や多様化するニーズに対して専門性を持つスペーディーに変革を実現する力の必要性。もう1つは、要員不足からオフアワーを断らざるを得なかった体制からの脱却」

そうした課題を踏まえて、「変革請負人を標榜する以上、いかなるニーズにも応える体制を目指したい」とスタートしたのが現中計だ。社内の人材育成と人員増強を両輪に、11年3月に設立した2社目のグループ会社、朝日ビジネスシステム(株)に続き、5年間で複数の分野で専門スキルを要する新会社や新事業部を設立していく方針を打ち出した。

再生目指す会社の現場を人材育成の場に

同社のコンサルティング事業は、かつては経営管理・業務面の改革が中心だったが、現在では事業再生や事業戦略立案といった企業の盛衰、存亡に関わる業務が大半を占める。そうした中、数ある新規事業でも、とりわけ古川社長が心を砕くのが人材育成事業だ。

「事業再生の現場では今、事業を動かす人材の育成の必要性を痛感している。再生計画の実行には、それを支える仕組みと実行力のある人材の存在が不可欠であり、この人材育成こそが企業の基礎体力

の底上げにつながるから」

中計3年目からの各事業の本格展開を前に、昨年12月には教育事業部を新設し、第1弾として福岡大学次世代人材開発研究所(所長・田村馨商学部教授)と連携し、「事業再生の現場での実践的な人材育成事業」を開始した。同事業では、同社が支援するスポーツ用品会社の再生現場を人材育成の場として活用するといった、これまでにない画期的なスキームを採用している。

「この再生が成功すれば、今後再生に携わる企業の人材育成や当社のコンサルティングにも生かせる。企業の困った問題を解決するため、今後も常識的ではない手法にも挑戦していきたい」

今秋の税理士法人設立や独自の管理職教育、海外進出支援、BPO事業など計画目白押し同社。4月には優秀な人材の確保や、既存メディアでは手に入らない「真の情報」の収集などネットワーク構築を目的に東京オフィス準備室を開設する。「自社やクライアント企業のみならず、地域や社会に還元できる仕組みづくりを推進していきたい」と常識に捉われない挑戦が続きそうだ。



12月に開催した福岡大学との人材育成事業の事前研修

【本社】 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-2-1 福岡センタービル5階 【設立】 2001年6月 【資本金】 5,000万円 【事業】 経営コンサルティング業 【従業員】 31人(グループ計、2013年4月1日現在) 【TEL】 092-436-4141 (ふるか・たけふみ)

福岡市東区出身。1973年4月3日生まれ。筑波大学第一学群自然科学類(化学主専攻)卒。外資系製薬会社を経て、2000年朝日監査法人入所。01年に分社化後、取締役を経て06年社長昇格。趣味は野球、ゴルフ